



Sustainable Society Research (SSR) 2nd Year High School



2024/04/11, 2024/04/18 SSR 授業（高校2年生）

1-1 講座の取り組みの紹介/お互いを知ろう

WWL プログラムでは高校1年生の SSS（Sustainable Social Study）講座から2年生の SSR（Sustainable Society Research）講座、3年生の SSD（Sustainable Society Design）講座まで一貫して「まちづくり」をテーマとし、問題解決へのアプローチを行います。高校1年生で受講した SSS からその学びを深めたいと希望する生徒たちがこの SSR を選択しました。さまざまな科目の教員が担当するチームティーチングが大きな特徴であり、本年度の SSR は教科もバックグラウンドも異なる、社会科の帖佐教諭と理科の城村教諭が担当します。



この講座では SSS で学んだ SDGs・社会・経済についての基礎知識をより深めていき、リサーチやディスカッションをするためのアカデミック・スキルや課題解決のための方法論を身につけ、グループワーク、フィールドワークを通して答えが1つでない問いに向き合っていきます。また私たちひとりひとりが「社会」をつくる一員であることに自覚をもって取り組んでほしいと考えています。

第1回目の講座は前年度の SSD 受講生の取り組みについて話を聞き、生徒や教員同士で自己紹介をしました。

2023 年度 SSD の取り組みの紹介

● リサーチブックの紹介



昨年度 SSD 受講生が制作した「まちづくり」をテーマにしたリサーチブック『コンパクトシティと空間デザイン』に目を通し、その中でひとりひとりが気になるトピックについて話し合いました。これから「まちづくり」についてそれぞれの視点から考え、リサーチやディスカッションをするために参考にしてもらいたい一冊です。

● 全国高校生フォーラム

次に、昨年12月に参加した文部科学省と筑波大学共催の「2023 年度全国高校生フォーラム」のプレゼンテーションの動画を視聴し、意見を交換しました。このフォーラムでは

日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決方法や提案等をテーマに全て英語でプレゼンテーションし、他校の生徒とディスカッションをします。今年度の講座にも帰国生徒が集まりました。同志社国際高校ならではの強みを活かして来年度のフォーラムにおいても成果を出してほしいと思います。



● 北欧フィールドワーク

続いて前年度 SSD 受講生の北欧フィールドワーク（海外研修）について話を聞きました。訪問先のデンマークとスウェーデンのまちづくりについて、写真を見ながらその取り組みについて話し合いました。また帖佐教諭より『Soft City』の著者である David Sim 氏に実際に会って聞いた話も共有してもらいました。



次に生徒と教員の自己紹介の内容を一部ご紹介します。

生徒たちの自己紹介から

住んだことのあるところ：アメリカ（クパチーノ）、京都

SSR 受講理由：アメリカから日本に来て、日本人の礼儀正しさや思いやりに関心を持ち、まちづくりにも通じるところがあると思って受講した。

将来住んでみたいところ：親のいるところ（京都）に住みたい。

最近興味をもっていること：ジャーナリズム

住んだことのあるところ：中国（広州）、福岡

SSR 受講理由：“Sustainable”の言葉に惹かれて受講した。

将来住んでみたいところ：東京、上海、ニューヨークなど人が多い都市。

逆に農村部にも住んでみたい。

最近興味をもっていること：ドキュメンタリー、ニュースに関心がある。

住んだことのあるところ：兵庫、京都、アメリカ

SSR 受講理由：北欧フィールドワークに興味をもったから。

将来住んでみたいところ：神戸

最近興味をもっていること：最近引っ越しをしたので新しく住んでいるまちを探検したい。

教員の自己紹介から

帖佐香織教諭

住んだことのあるところ：パリ、台湾、大阪、兵庫

SSR では：将来社会を変えていける若者を育てたい、またヨーロッパのまちが好きなのでこの講座を楽しみにしている。

将来住んでみたいところ：パリ、コペンハーゲン

最近興味のあること： 時間をつくる方法

城村怜教諭

住んだことのあるところ：大阪、東京、京都

SSR では：担当科目以外で授業ができるいい機会であると思っている。

将来住んでみたいところ：こどもが幸せに暮らせるところ。

最近興味をもっていること：菜食主義者の哲学、宗教関係の本

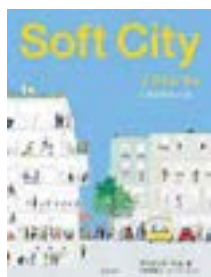
自己紹介ではお互いのことについて質問をしたり、自分の事について話すことでお互いの距離が一気に近くなりました。様々なバックグラウンドをもつメンバーが集まり、今年度の講座が楽しみです。



最後に教員よりこの講座に関連した文献が紹介されました。その一部を紹介します。

紹介された本：

- ・ David Sim 著 『Soft City』
- ・ 平井太郎・他著『地域・都市の社会学』
- ・ 森千香子著『ブルックリン化する世界』
- ・ 読書猿（著）『問題解決大全』、『アイデア大全』



2024/04/25 SSR 授業（高校2年生）

1-2 アイデアを出すためのワーク～エクスカージョン

高校1年のSSSの授業では、京田辺市への政策提言を考えてもらいました。生徒たちは京田辺市の問題を解決したり、まちの魅力やシビックプライドを高めるためのアイデアを考えましたが、今日の講座ではアイデアを出すためのワーク「エクスカージョン」に取り組みます。



● エクスカージョン

アイデアを出すためには、主に「分析モード」と「発想モード」があります。エクスカージョンとは小旅行や遠足という意味があり、少し遠回りをして考える「発想モード」を使って問題解決に取り組む方法です。

＜例題＞ 新しい筆記具を「エクスカージョン」という手法を使って考えてみましょう。

1. テーマを決める → 「新しい筆記具の開発」
2. テーマとは無関係なもので、カテゴリーを決めてリストを作る
3. リストのそれぞれの項目について、特徴や印象を思い浮かべる
そこからアイデアを考えてみる←頭を柔らかく！

生徒たちはリストにあるものについて絵を描きながらその特徴を確認し、自由な発想でアイデアのある筆記具を考え、発表してもらいました。

＜エクスカージョンの発表＞

生徒たちがエクスカージョンの手法で考案した筆記具を一部ご紹介します。



カテゴリー：飛行機

- ・ 小さいエンジンを搭載して空中に浮く筆記具
(置き場所に困らない)
- ・ 芯が4つある高機能シャープペン
- ・ 翼が出てくるおもちゃの鉛筆
- ・ 翻訳機能がついているペン

カテゴリー：楽器

- ・サクスのように手元に操作ボタンがある
シャーペン
- ・ホルンの形のように手におさまる良いスタイル
のペン
- ・トライアングルのような素材のおしゃれな
ペン



「たしかに！」と実際に欲しくなるような文具が紹介され、生徒たちの想像力が活かされ楽しい取り組みとなりました。問題を分析して解決案を出す方法ではこのようなアイデアは出てきません。「エクスカーション」をしてみると、おもしろいアイデアがたくさん出てきます。自由な発想から色々なアイデアを出し、結果として問題を解決することができる手法があることを実践で学ぶことができました。この手法を用いながら、これから取り上げる課題に対してよい解決策を探っていけたら良いと考えます。

2024/05/09 SSR 授業（高校2年生）

1-3 まちづくりについて考える

今日の講座では、まちづくりに関して自分が興味をもち、これから追求をしたいテーマについて考えていきます。はじめに、先生方からまちで見かけた公共施設の紹介と、テーマの例を挙げてもらいました。



● 街で見かけた公共施設の紹介

- ・帖佐教諭 「デンマーク王立図書館」 [Royal Danish Library | kb.dk](https://royal-danish-library.jp/)

特長：

旧館の隣にブラックダイヤモンドと呼ばれる新館が建てられる。近代的なデザインであり、旧館と新館をつなぐ廊下にはバイキングの帆船の模型が展示されるなど、北欧の歴史に触れることができる。図書館の他にコンサートホールやカフェもある。

- ・城村教諭 「泉大津市立図書館」 <https://sheeplaizumiotsutosyokan.osaka.jp/>

特長：

駅前の商業施設のフロアをリニューアルして開館した市立図書館。繊維、ショール、毛布 (sheep) などの地元の特産物からシープラと愛称がつけられる。地元の歴史を展示するコーナーや児童、高齢者、子育て世代に配慮したデザインが印象的。

● まちづくりのテーマの例

- ・美術館・・・ルートヴィヒ夫婦が個人所有していた絵画を市と連携して展示するルートヴィヒ美術館（ドイツ）のように、市民や地域と共働した美術館について。
- ・博物館・・・市民を巻き込んでいく市民参加型の博物館、生活の一部として博物館に行けるまち（MLA連携）について。
- ・ソフトシティの取り組み・・・北欧だけではなく、中国版、日本版、京田辺版ソフトシティについて。
- ・誰も取り残さないまちづくり・・・ジェントリフィケーションでまちが高級化し、きれいになるのはいいことだが、富裕層しか住めなくなるという課題にどう対抗するかということについて。
- ・交通システム・・・バス高速輸送システム BRT（Bus Rapid Transit）や次世代型路面電車 LRT(Light Rail Transit)などについて。

● 自分のテーマについて考える

なかなか答えの出そうのない抽象的で壮大なテーマや、一瞬で答えがわかり、議論の余地のないテーマは避けて、自由な発想でまちづくりの追求したいテーマを考えましょう。

2024/05/16 SSR 授業（高校2年生）

Nueva 中学生とまちづくりについて考える

今日はアメリカから来日している Nueva Middle School 交換留学生をお迎えして授業を行いました。アメリカ、中国、シンガポールなど、様々な国に住んでいた経験がある Nueva 中学生と本校生徒が顔を合わせ、自分たちが住んでいるまちについて、理想とするまちについて話し合い、お互いの考えを共有する機会を得ました。



まちづくりについて Nueva 中学生に問いかけた質問を一部ご紹介します。

空港は公共交通機関でアクセスできる都市の中心部にある方が良いと思いますか、また車でしかアクセスできない、都会から離れたところにある方が良いと思いますか？

Well-being についてどう思いますか？それについて学校で学びますか？

バンクシーの絵についてどのように思いますか？

資金面の問題を抜きにしたら、まちの交通について何を変えたいと思いますか？

美術作品を個人的に所有するか、パブリックスペースである美術館で共有するか、どちらがいいですか？

スウェーデンやデンマークは一人あたりの GDP が高く、生きがいがあり幸せな暮らしができる国として挙げられています。どのような要素がそれらの国を幸せな国にしていると思いますか？

Nueva 中学生も本校の生徒も、英語、中国語、日本語の中でそれぞれが得意とする言語を使用し、3か国語が飛び交った国際色大変豊かな授業となりました。最後の質問、「資金面の問題を抜きにしたら、まちの交通について何を変えたいか。」という質問に対しては、Nueva 中学生は、特急列車、女性専用車両、動く歩道、トイレ付電車などと答え、私たちの生活では当たり前にあるものが彼らの国になく、あったらいいと思われるものがあることを認識できました。また、電車のセキュリティを強化するなど、我が国にも共通すると考えられる課題もみつけられました。

ひとりひとりがしっかりと意見を持ち、質問に元気よく答える Nueva 中学生がとても印象的でした。和気藹々とした雰囲気ですべての生徒が住むまちやまちづくりについて思うことを共有することができ、SSR の受講生と Nueva 中学生にとって大変貴重な交流の時間となりました。

2024/05/30 SSR 授業（高校2年生）

1-4 ドイツ交換留学生とまちづくりについて考える

前回の講座に続き、今日はドイツ交換プログラムで来日している高校生3人と現地校の先生と一緒に授業を行いました。ドイツと日本の他に、本校生徒が住んでいたアメリカや中国の事例を交えながら、それぞれの国のまちづくりについてお互いの考えを共有しました。今回も英語、ドイツ語、日本語の3言語が飛び交い、大変貴重な学びの時間となりました。

ドイツ留学生に質問をして話し合った内容を一部ご紹介します。

・ドイツと日本の幸福度についてどう思うか？

“子ども世代にとっては、日本は安全で清潔感があっていいと思うが、働き方についてはドイツに比べて日本は休みが少なく、働く環境は良くないと聞いている。”

・中国ではどうか？

“中国では学校は朝 9 時から夜 9 時まで勉強して、仕事も忙しく、めっちゃ働く。”

・空港のデザインについてどう思うか？

ドイツ・シュトゥットガルト空港、中国の北京空港のデザインが話題になった。

・なぜ空港のデザインはアーティスティックになっていると思うか？

“今の最新技術を表していると思う。”

“長い待ち時間をストレスなく過ごせるような快適な空間を意識的に作っていると思う。”



・日本とドイツ、アメリカ、中国のまちの違いをどう思うか？

“日本は peaceful で、清潔。ドイツで住んでいるまちではゴミが落ちていて清潔と言えない。”

“ドイツの人はそれほどフレンドリーではない。”

“アメリカも汚いところがある。人は挨拶など気軽にできるのがいい。”

・生活をするための交通手段は何を利用するか？

“ドイツでは多くの人は公共交通を使う。乗り放題の乗車券が安くで売っている。ただし、電車はよく遅れたりキャンセルになり、困ることもある。”



留学生の Lara さんが、都市のビジョンを体験できる理想都市 YOUTOPIA のウェブサイトを紹介しました。このサイトでは、ユートピアのコンセプトについて、様々な視点から理想的なまちが何をベースに構成されるか理解を得ることができます。

中でも円（サークル）をベースに設計さ

れた理想都市の画像が印象的でした。

写真：ウェブサイト：[Youtopia \(youtopia-konstanz.de\)](http://youtopia-konstanz.de)より



【ディスカッションを終えて】

2週間に渡り、アメリカとドイツの留学生と授業をともにし、ディスカッションをしました。留学生とのやりとりの中で印象に残ったことや、今回の経験を通じて学んだこと、感想などを共有しました。

生徒の感想：

- ・アメリカのまちのデザインについて中学生が町全体のことを考えないといけないと言及していたことに良い刺激を受けた。
- ・ドイツの公共交通機関は安いけど時刻通りに来ないなどの不満が大きかった。
- ・アメリカ、ドイツ留学生に共通して、日本の公衆トイレは清潔であるという印象を持っていた。

また、ディスカッションを振り返り、準備や進行で今後改善できそうな点を話し合いました。次の機会には自分で設定したまちづくりのテーマに沿って留学生にインタビューをし、情報を得ることも有意義になると考えられます。今回のディスカッションを通じて得た経験をこれからの取り組みにぜひ活かしていきましょう！

2024/06/06 SSR 授業（高校2年生）

1-5 アイデアを出すためのワーク②～さくらんぼ分割法～

以前に「発想モード」を使った「エクスカージョン」という問題解決をするための手法を実践し、新しい筆記具のアイデアを考えました。今日の講座では「分析モード」を使った「さくらんぼ分割法」という手法を用いて問題解決の実践に取り組んでいきます。

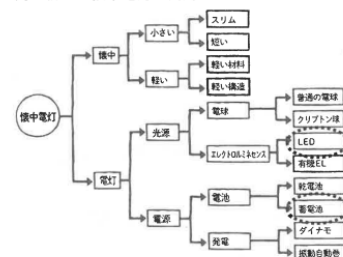


●さくらんぼ分割法（cherry split）

さくらんぼ分割法は、課題を要素に分割していき、分解後の属性（≡特徴）から、好きなように組み合わせたり、無意識に見落としているところを組み合わせで新しいアイデアを得ようという手法です。

数学で学ぶ「場合分け」の考え方と通じるものがあります。

例：新しい懐中電灯の開発



光源にLEDを使った、
乾電池のいらない災害用懐中電灯。

- ・アイデアを出す場合には「新規性」「有用性」を意識しましょう。
- ・実際には特定の領域でアイデアを出す場合には、その領域についての深い知識が必要で、その知識の上に発想が生まれるものです。何も知らないことが自由な発想を生み出すという考えは、今は否定されています。
- ・固定化された見方を属性への分解を繰り返すことで解体し、自由な発想を可能にするための環境を作り出すための方法です。先入観で排除していたことや見逃しがちなものを拾っていけること、また気軽に使える便利な方法でもあります。

アイデア大全=THE IDEA TOOL DICTIONARY：創造力とブレイクスルーを生み出す 42 のツール 読書猿著、フォレスト出版、2017.2 p192~198

<例題> 多くの人がスマートフォンなどのタブレットを使用しています。さくらんぼ分割法を使って、新しい ICT 機器を作ってみましょう。

生徒が考えた新しい ICT 機器のご紹介：

アラームが鳴り始めてから止めるまでの時間を計り、止めるのが遅い場合は次の日のアラームの音量が大きくなる機能をもった目覚まし時計

水の pH や風速が測れる
防災ラジオ

「実際にこんな商品があったらいいな！」と思えるような発想豊かな機器が紹介されました。さくらんぼ分割法を用いて発想したときに新しいアイデアが出てくる可能性があることを生徒たちは学ぶことができました。

2024/06/20, 2024/06/27 SSR（高校2年生）

1-5 まちづくりについてのテーマ探し/課題図書を読んでもみよう

今日はまちづくりのテーマ探しをするグループと課題図書の章を読んでレジュメを作成するグループに分かれ、作業に取りかかります。

● 個人レポートのテーマ探し

生徒たちはまちづくりに関して自分が興味をもち、SSR・SSD 講座の2年間で取り組んでいく個人レポートのテーマ探しをします。これまで、

まちづくりについて国内外の事例を見てきました。また留学生との交流で意見を交換し、





まちづくりについて様々な視点から考察してきました。テーマ探しは先生からアドバイスをもらいながら検討していきます。またたくさんある材料の中から、生徒同士でも意見交換し、課題の発見や問題解決について考え、自分が探求をしていきたいテーマを決めていきます。

候補に挙がったテーマ：

- ・建物やまちのデザイン（色・形）
- ・空き家などの有効活用
- ・商店街の発展と衰退
- ・パブリックスペースの利用について
- ・伝統的な文化と現代的な文化の共存（中国・広州について）
- ・観光客に対する取り組み

etc...

● 課題図書を読んでみよう

まちづくりに関して書かれた課題図書『地域・都市の社会学』（平井太郎、松尾浩一郎著）を読み、自分が興味のある章を選んで内容をまとめ、プレゼンテーションをします。今日は課題図書全体に目を通し、担当をする章を選びました。プレゼンテーションは次の講座で行う予定です。



【課題図書について】



『地域・都市の社会学 — 実感から問いを深める理論と方法』（2022年4月有斐閣）

平井 太郎，松尾 浩一郎，山口 恵子／著

身近な地域の生活に触れ、都市の問題を知ることができる本。都市問題や地域住民の課題、人と人の距離、排除や貧困など、具体的な社会問題について書かれている。

・目次・

第Ⅰ部 地域を実感する

第1章 地域と都市はどのように実感されるか—「距離」への敏感さ

第2章 地域・都市はどのように形づくられたか—人びとの空間的共存を捉える視点

第3章 空間と場所の問い方——マクロ・ミクロからのアプローチ

第Ⅱ部 地域に集まる力／世界に広がる力

第4章 グローバル化とどのように向き合うのか—再生産領域への労働移動から考える

第5章 ナショナルなものと地域・都市—〈中心〉と〈周辺〉、その先にあるもの

第6章 ローカル・トラックとは何か—進学・就職をめぐる理想と現実

第Ⅲ部 地域・都市で生まれる社会

第7章 都市の公共空間—人の集まる場所のしくみ

第8章 都市の不平等はどのように進行しているのか—異質性と排除が結びつくとき

第9章 コミュニティはどこから来てどこへ行くのか—語りのダイナミズム

第Ⅳ部 地域・都市のこれから

第10章 「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるか—ここに生きる意味の承認

第11章 地域・都市はどこへ行くべきか——地域への問いと社会学的想像力

第12章 創造と継承——都市の未来、都市の歴史

2024/07/04 SSR 授業（高校2年生）

1-6 『地域・都市の社会学』章ごとのプレゼンテーション



今日は、まちづくりに関して書かれた専門書『地域・都市の社会学』の自分が担当した章について、まとめたレジュメをもとにプレゼンテーションをします。その章に何が書かれていたかをみなで共有し、ディスカッショントピックについて話し合い、理解を深めていきます。

【取り上げられた章】

- 第 7 章 都市の公共空間 ― 人の集まる場所のしくみ
- 第 9 章 コミュニティはどこから来てどこへ行くのか ― 語りのダイナミズム
- 第 12 章 創造と継承 ― 都市の未来、都市の歴史



それぞれ十数ページにわたる章の内容を1～2枚のレジюмеにまとめ、発表することは容易ではありませんが、生徒たちは担当する章のポイントをつかみ、上手にレジюмеにまとめてプレゼンテーションすることができました。このようにトレーニングを積み重ねてスキルを習得し、これからの取り組みに役立てていきましょう。

また本の内容を共有し、ディスカッションすることは、自分だけの理解で終わらず、抜け落ちた部分も拾うことができるといったメリットに加えて、新しい発見、より詳細な理解を得られるという点でも効果的です。その発見や理解できた内容を、今後のまちづくりのリサーチにも参考にしてもらいたいと思います。

【夏休みの課題】

個人リサーチ・・・個人レポートのまちづくりに関するテーマについて情報を収集、整理し、調べられたところまでレジюме形式でまとめて提出する。(写真やグラフを入れても OK)

2024/09/05 SSR 授業 (高校2年生)

ドイツ交換留学プログラム・北欧フィールドワークの体験談を聞く/夏休みの課題報告



今日は夏休みが明けて 1 回目の講座です。昨年度に北欧フィールドワークに参加した卒業生 2 名が授業に参加し、にぎやかな時間となりました。

初めに、夏休み中に実施された本校のドイツ交換留学プログラムについて、引率した帖佐教諭がドイツを訪れて感じたことや参加した生徒の感想を共有しました。その中で印象的だったものを抜粋してご紹介します。

【劇場のパブリックビューイング】～帖佐教諭～



ドイツで3番目に大きい都市、シュトゥットガルトにちょうど訪問した日に、駅前にあるバレエ劇場でのパフォーマンスを、近くの広場でパブリックビューイングができるよう大型スクリーンが設置されていた。バレエ団のパフォーマンスを市民は誰でも無料で観ることができ、パブリックスペースが人々の憩いの場として有効利用されていることがわかる。

(画像：Ballet in the Park 2025 | Stuttgart Ballet)

<https://www.stuttgart-ballet.de/schedule/a-z/ballet-in-the-park-2025>, 参照 2024-10-20)

【公共バスの停留所にある古本棚】～生徒のレポートより～



これは、ドイツのロイドリングゲンのまちでよく見られる、バス停に設置されている本棚である。この棚に住人が古本を持ってきて、読みたい人が自由に持ち帰ることができる仕組みになっている。本をこのような形で交換できる場が公共スペースにあることは、年齢層に関係なく、まちのコミュニティの形成に有益であると考えられる。

次に、卒業生2人が北欧フィールドワークの体験談を共有してくれました。北欧フィールドワークについてはこちらの記事に詳細を報告していますが、まちづくりについて2人が特に魅力を感じたことをここでご紹介します。

【北欧フィールドワークで訪れたまちの魅力】

● コペンハーゲン

- ・ 自転車専用道路が整備されていて、電車に自転車を乗せることができるなど、自転車での移動がスムーズにでき、カーボンニュートラルなまちを目指している様子がわかった。

● スウェーデン

- ・ マルメ図書館には飲食や会話をしながら作業ができる、開放的なスペースが用意されている。
- ・ 新鮮な野菜、フルーツなどが売られている市場

- ・ 建物が不規則に配置されている → 住人のコミュニティスペースが生まれる、また海風を防ぐ役割があったり、車が入れないことで子供が安全に遊べるスペースができる。
- ・ 下の階はホテル、上の階は住宅に利用するなど、人の通りを工夫した構造（レイヤー）の建物が見られる。



これらのまちの魅力には共通点があり、どれも人々の生活の質を向上させる取り組みであることに気づかされます。体験談を聞いた生徒たちは、日々の生活の中で何が大切なのかを考えるいい機会となりました。様々な角度からまちの魅力を感じとり考察していける力を、海外を訪れた生徒たちの体験談を聞いて、また実際にこれからいろんなまちを訪問して身に付けていってほしいと思います。

【夏休みの課題報告】

今日の講座の後半は、夏休みの課題の報告をしました。夏休み前に選んだまちづくりのテーマに沿って、訪れた場所で実際に見たこと、調べてきたことをまとめたプレゼン資料を見ながら、自分の取り組み内容を共有し、ディスカッションをしました。

2024/09/12 SSR 授業（高校2年生）

2-1 レポートの書き方



よいレポートを書くためには、ただ思いついたことを書いていくのではなく、レポートを書く目的を決めてテーマを絞り、レポートの構成や引用文献の書き方などの知識を活用することで、よりよいレポートを書くことができます。今日の講座では、レポートの書き方について押さえておきたいポイントを学びます。

【レポートの書き方】

* レポートの種類

* 無い「問い」をひねり出す

* レポート（論文）の「型」

- ① タイトル、著者の氏名・所属
- ② 本体・・・問い（問題提起）＋答え（主張）＋論証
- ③ まとめ
- ④ 引用注（参考文献一覧）

* 文章の書き方

夏休みの課題として提出されたレポートの中には、スタート地点の「問い」をひねり出すところからつまづく生徒が見られました。よいテーマを見つけるために「ネタにさまざまな問いをぶつけてみること」、「大きすぎる問い、調べる手段がない問い、答えが流動的な問い、答えがない問いなどは避けた方がよい」など、「問い」（問題提起）を出すために意識をするとよいポイントについてレクチャーを受け、どのような角度から問題提起をしてリサーチを進めていけばよいかを考えました。



紹介された図書：

『論文の教室 レポートから卒論まで』戸田山和久著

論文の基本からアウトラインの作り方、草稿のまとめ方、仕上がり方までを伝授する。主張の説得力を高めるための「論証」のテクニック、文献や資料探し、情報検索の方法について解説する。

(<https://www.amazon.co.jp/>より抜粋)

2024/10 SSR 授業（高校2年生）

2-2 個人レポートの取り組み① ～テーマの決定と論理構成の作成～

これからの講座で、生徒たちは夏休みの課題として提出した個人レポートの報告資料を検証し、よりよいレポートに仕上げていくためのテーマの見直しと、そのテーマのための論理構成を行っていきます。レポートの作成とリサーチやディスカッションなど研究を進めるためのアカデミック・スキルを習得していきます。

【個人レポートのテーマの見直し】

はじめに生徒が選んだレポートのテーマについて、なぜそのテーマを選んだのかを再確認します。どのように問いをひねり出したか、大きすぎる問いではないか、それは調べる手段がある問いであるかなどの項目についてディスカッションし、アイデアを出しながら生徒ひとりひとりのテーマについて方向性を確認します。よりよい着眼点から問題提起をしてリサーチを進められるように、必要であればテーマの方向性を変え、軌道修正をしていきます。

【テーマ A】

(修正前) シドニーとメルボルンの聖堂

(修正後) 都市のシンボルの分類とそこに住む人々の暮らし

【テーマ B】

(修正前) 八幡市公園

(修正後) 公園の進化と活用

【テーマ C】

(修正前) 直島

(修正後) 島のまちづくり

少人数クラスの利点を活かし、ひとりひとりのテーマについてじっくりと時間をかけてディスカッションをすることができました。結果として最初に思いついたテーマからこれまでに気付かなかった「問い」を見つけ、新規性があり、リサーチする意義のあるテーマにたどりつくことができました。これらのテーマについてこれからさらにリサーチを進め、レポートを仕上げていきます。

【論理構成（アウトライン）の作成】

次のステップとしてレポートの論理構成（アウトライン）を考えていきます。作成したアウトラインを先生やほかの生徒と共有し、意見を交換して必要に応じ修正していきます。最後に生徒同士で作成したアウトラインの良いところや改善できるところについて話し合います。



< 教員からのアドバイス >

- ・ 最終的にどんな社会にしたいか、社会のあるべき像を考察して自身のアイデアと結びつけるとよい。また、自分ならどのようなまちであってほしいか、自分の視点から書くとよい。
- ・ 自分の海外生活の経験から、日本に来て感じたことを含めるのもよい。(例：公園のテーマの場合、どんな公園が自分にとってときめくか、理想の公園か。)
- ・ ひとりで考えると抜け落ちる点も出てくるので、先生や周りの人からのアドバイスをもらって修正していくとよい。
- ・ アウトラインの項目を取捨選択して流れを作れるようにするといいい。着地点を先にきめておくこと。

以上のことを踏まえてレポートの論理構成を固め、レポートを書き始めるステップに進んでいきます。講義の中で、Chat GPT や Gemini といった生成 AI による情報収集やその活用の仕方についてもディスカッションしました。便利なツールが出てきましたが、これらを有効活用してレポート作りに役立ててもらいたいと思います。

2024/11 SSR 授業（高校2年生）

2-3 個人レポート取り組み② ～レポートの進捗確認と発表～



今日の講座では、個人レポートの論理構成（アウトライン）に沿ってレポート本文を書く作業に移ります。

教員がひとりひとりのレポートの進捗状況を確認しながら、よりよい内容に仕上がるようアドバイスし、それに基づいて生徒たちはレポートの修正をしていきます。

<教員からのアドバイス>

- ・ レポートの立ち上げに、なぜこのテーマを選んだのかを明確にするとよい。
- ・ テーマが大きく、書く内容が広範囲にわたる場合は、文章を書き始める前に組み立てた論理構成を再確認し、レポートが最終的にどこに行きつくか、着地点を決めておき、「こうなったらいいのに」という自分の希望を示すのもよい。
- ・ 生成 AI で得た情報については、自分の経験から知っていること、行ったことがあるところ、見たことがあることなどを含めることによってオリジナリティを出するとよい。

- ・ 生成 AI で得た情報については、自分の経験から知っていること、行ったことがあるところ、見たことがあることなどを含めることによってオリジナリティを出すとうい。
- ・ 段落が長いところは分けて書くとうい。情報の取捨選択をする。調べたことすべてを書かなくてもよい。
- ・ リサーチが思うように進んでいない場合は計画を立てて進めていく。
- ・ 立ち上がりの文を確認、書く内容の順番をチェックする。
- ・ ですます調→だ・である調に統一する。
- ・ レポートに合った言葉の選択をする。(ex. 調べてみました→考察した)

【レポートの発表】

2 学期の最後の授業でこれまで取り組んできたレポートの発表を行いました。その内容を抜粋してご紹介します。

【都市のシンボルの分類と、そこに住む人々のくらし】

夏休み中に訪れたオーストラリアのメルボルンにあるセント・ポール大聖堂が印象に残り、教会がまちの中でどのような役割を果たしているのか疑問に思ったところからこのテーマにたどり着いた。まちのシンボルは歴史的建物だけではなく、山や川、公園などの自然的なシンボルや地域の祭りなどの文化的なシンボルもある。レポートでは都市のシンボルを分類して調べ、それらのシンボルがまちの人の生活にどのような影響を与えるのかを考察する。結論として、シンボルが広く認識されることによって住民は自分たちのまちに誇りを感じられるようになり、まちのシンボルが都市と住民に成長と発展を支える重要な要素となっていることがわかった。

【公園の変化と活用法】

日本には公園が多く、身近な存在であるが、海外で育った私にとって、日本の公園は寂れていたり、使われていないものが多いように見える。そこで日本の公園行政の歴史や現在の法制度、公園の分類やその基準について詳しく調べ、アメリカのものと比較をした。中でも生活圏において最も身近な存在である住区基幹公園について取り上げ、現在の公園の使われ方や課題について調査、検討し、その公園がもつ役割を考え、今後どのようにしたらこれらの公園を活用できるかを提案する。また公園は利用する人々だけではなく、そのまち全体の発展と秩序を見守る役目があると考え、都市や地域のつながりをより良くするポテンシャルがある公園を最大限活かすための理想の公園像を考える。

【島のまちづくり 一直島を例に一】

中学生の時に直島を訪れ、島という場所には特有の世界観があると感じ、興味をもった。島には高齢化による人口減少や観光客が増えることによって生じる課題があり、直島をはじめとする様々な島ではどのようなまちづくりが行われているのかを調べた。比較したのは直島、大久野島（別名：うさぎ島）、直島と同じ人口のアメリカ・タイビー・アイランドの3島で、それぞれの島の歴史や産業、観光業について調べた。結果、島によって全く違う固有の雰囲気があり、どの島も観光客を呼び込む魅力があって観光地としては成功していることがわかった。しかし、その観光業が定住者を呼び込み、まちおこしとして成功している島と、空き家や民家がなく移住者や定住者を呼び込むことが難しい島があり、まちとしてすべての島が活性化しているわけではないことがわかった。

【発表を終えて】

書き始めの段階ではレポートを書くことに慣れず、うまく前に進めなかった生徒たちも、自分のテーマに必要な情報を収集し、時間をかけて考察していくことで、レポートの内容を改善し、より良いレポートにまとめることができていました。発表を終えて、生徒と教員がそれぞれの発表の感想や意見を交換しました。

発表でよかったと思うこと

- ・書きはじめの頃より書く内容がよくまとまっていて、レベルアップされている。
- ・成功例とうまくいっていない例を出してうまくまとめられている。
- ・調べたことだけではなく、実際に公園に足を運んで看板を見たり、自分の経験から自分の考えを書いているのがよかった。

これから改善できるところ

- ・自分が住んでいたまちのことを調べて書くとオリジナリティが出てよい。
- ・うまくいかない例はどうしたらよいと自分は考えるかをレポートに含めるとよい。

これらのアドバイスをもとにレポートを再修正し、最終的に仕上げたレポートを学期末に提出してもらいます。レポートのテーマ探しから発表まで、それぞれの生徒が試行錯誤をしながら自分のテーマと向き合い、真剣に取り組む様子がとても印象的でした。リサーチを進める中で新しい発見もたくさんありました。今回のレポートの取り組みで習得したことを、今後の取り組みでさらにパワーアップさせて、活用してもらいたいと思います。

2025/01/09 SSR 授業（高校2年生）

3-1 個人レポート取り組み③



SSR の講座も 3 学期に入り、残りあと少しとなりました。最初の授業は、生徒や教員の冬休みの体験談の共有ではじまりました。親戚に会いに中国に行った生徒、淡路島に旅行をした生徒、自宅でゆっくり過ごした生徒。またパリで開かれた OECD の高校生国際会議の引率をした教員の話も聞くことができ、生徒たちは興味深々にお互いの体験談に耳を傾けていました。

今日の授業では 2 学期の終わりに発表をした後、修正を加えて仕上げた個人レポートをみんなで共有し、それぞれの良いところ、改善ができるところをメモに書いて渡します。ひとりひとり、レポートの内容は昨年から大きく成長し、充実した内容となっていました。

【良かったところ】

- ・ 具体例がたくさん挙げられていてよかった
- ・ 住民の視点から考えを書いていて良いと思った
- ・ 自分の経験をレポートに含めているのが良いと思った

【改善できるところ】

- ・ 途中からです・ます調に変わっている
- ・ 実現可能性が低い提案がなされていた
- ・ 1 つの文が長いところがある

次のステップとして、みんなが書いたレポートの中から一つテーマを選び、そのテーマについてさらに深く掘り下げてリサーチを進め、グループでポスター発表をすることに挑戦します。

2025/01/23・2025/01/30 SSR 授業（高校2年生）

3-2, 3-3 動画鑑賞 ～欧州ランドスケープ探訪～、～超高齢社会の居場所づくり～

これから2回の講座に分けて、まちづくりに関連した動画を鑑賞し、これまでとは違った視点からまちづくりについて考えていきます。

「欧州ランドスケープ探訪」 講師：中島悠輔氏

中島悠輔氏は、ベルリンの設計事務所にて勤務し、活躍しているランドスケープアーキテクトです。動画ではヨーロッパの各地を旅する中で出会ったランドスケープデザインや、ランドスケープの視点から見た都市の歴史、デザインにおける日本との考え方の違いなどについての気付きを紹介しています。キーワードは、「ヴォイド（空間）」。ベネチア、ハンブルグ、コペンハーゲンの事例から空間デザインのあり方について考えていきます。



連載「欧州ランドスケープ探訪」vol.0 | ランドスケープの源流を求める旅へ | 学芸出版社 - まち座
<https://book.gakugei-pub.co.jp/europe-landscape-exploration-vol0/> 参照 2025-1-30

【動画の感想】

〈ベネチア〉・密閉（閉鎖）感と開放感が共存していると思った。・立地の悪いところにまちを作っているので採光が悪いと思う。・約100m毎に広場があることに注目した。公園とはまた別のタイプのヴォイドだと思った。

〈ハンブルグ〉・建物の間に広場があり、採光が良い。・デザインにシンメトリー感がある。

〈コペンハーゲン〉・建物はデザイン性が高い印象。・冬の間は日が短く、暗いため屋内で過ごす時間が長いことが建物のデザインにも影響していると思う。

朝日講座「町をすみこなすー超高齢社会の居場所づくり」 講師：大月敏雄教授

大月敏雄氏は建築計画、住宅地計画、ハウジング、まちづくりが専門の建築計画学者です。教授を務める東京大学の公開授業の動画を鑑賞し、「自分にとっての居場所はどこなのか」を意識しながら、これからのまちの居場所をどのように戦略的につくっていくかを考えます。動画では住み慣れた地域で高齢者の自立支援を促す地域包括



ケアシステムの構築を実現するための事例や課題も紹介します。

大月敏雄「超高齢社会の居場所づくり」（2018年度朝日講座「居場所」の未来「知の調和―世界をみつめる 未来を創る」第2回）

<https://www.youtube.com/watch?v=U0V8QDH7SyM> 参照 2025-1-30

【動画の感想】

・建築計画を立てるときに、働く人の目線が大事だと思った。 ・高齢者の事故防止のためにも、家の近くに居場所があったらいいと思う。 ・能登地震が起きたあと、仮設住宅に見廻りの人がまわっていることに感心した。

動画を参考にしながら、それぞれのテーマやキーワードについてさらに深めようとする生徒たちが印象的でした。これらを踏まえて、これからグループで取り組むリサーチに取り入れられるような（自分が興味を持って取り組めるような）「テーマ」や「問い」を探っていきます。

2025/02/06, 2025/02/13, 2025/02/20 SSR 授業（高校2年生）

3-4 グループ発表のポスターの作成について

資料：ワークシート 3-04



これから生徒たちはグループでリサーチをして、ポスター発表をする準備にとりかかります。個人レポートのそれぞれのテーマの中から意見を出してテーマを選びますが、ポスターのタイトルになる問い、興味を引くキャッチーな問いを考えていきます。グループワークを通して生徒たちは共に課題を発見し、問題解決の方法について学んでいきます。

【テーマ探し】

生徒と教員がディスカッションをした結果、「公園の変化と活用法」のテーマを取り上げた生徒のリサーチ内容をさらに掘り下げて、「**居場所としての公園のポテンシャル**」をグループ発表のテーマに選びました。このテーマは、動画で観た「ランドスケープ」や「ヴォイド（空間）」、「居場所」といったテーマと結び付けることもできます。また、「パブリックスペース」、「プレイスメイキング」、「公園づくり」、「シンボリック機能」、「多様性（お年寄り、子供など）」などのキーワードと関連づけることもでき、これまでまちづくりについて学習してきた内容をさらに発展させてリサーチすることができるテーマとなりました。

【課題研究ポスターの作り方】

グループワークの目標として、発表で伝えたいことを伝える、また伝えたいことが伝わるポスター作りに挑戦します。本校や他校の生徒たちが過去に制作発表したポスターを参考にして、ポスター作りのキーポイントを学び、自分たちのポスター作りに活かしていきます。

ポスターのレイアウトで気を付けること：

- ・重要な情報の配置・・・タイトルや結論など、観覧者の目を引く重要項目を目立つ位置に配置する工夫をする。
- ・余白の確保・・・各要素の間に適切な余白を設けることで、情報が過密にならず、見やすくなる。
- ・情報の構成・・・ポスターに掲載する情報（タイトル、研究内容、フォントとカラー、画像やグラフの挿入）は、見る人が一目で理解できるように工夫する。

ポスター発表をする際に重要なのは、限られた時間内で研究内容をしっかりと伝えることです。また研究テーマや重要なメッセージを明確にし、調査などをしてエビデンスを出すことも重要です。これらのことに注意しながら、テーマに沿ったリサーチとポスター作りを実践します。



【ポスター発表に向けて】

ポスターを作るにあたって、論理的な構成を保つことが重要です。

- 背景：研究の目的とその重要性を簡潔に説明する
- 目的：何を目指して研究が行われたのかを明確にする
- 方法：使用した具体的な手法を示す
- 結果：得られたデータなどを視覚化し、要点をコンパクトに示す
- 考察：結果の解釈や今後の可能性について触れる

テーマ：「居場所としての公園のポテンシャル」

はじめに、結論がぶれないよう結論から考えました：

- ・公園を改装してみんなが行きたい場所にする。
- ・地元の人の交流が進むことで公園を活性化させることができる。結果、公園が様々な人の居場所になる。

- ・ 今ある公園を変えるには、人を巻き込んでやっていかないといけない。呼びかけをして変えていく。

つぎにリサーチの方法について確認しました：

- ・ 研究に使える資料を収集し、実際に公園を観察して写真を撮ったり、利用状況を調べたり、可能であればインタビューをする。



最後にポスターの構成全般について全員で話し合いました。今年度の締めくくりとしてより具体性のある研究内容のポスター発表ができることを楽しみにしています。

2025/02/27 SSR 授業（高校2年生）

3-5 ポスター発表と SSR 講座のふりかえり

今年度最後の SSR 講座となりました。今日はこれまでグループワークで取り組んできたテーマ「居場所としての公園のポテンシャル」について、ポスター発表を行います。

準備期間があまりない中、グループメンバーで協力をし合って発表に向け準備を進めてきました。リサーチする内容について情報を収集し、論理的な構成を意識しながらポスターを実際に作りました。ポスターの情報の配置はわかりやすくシンプルに、色は緑色で統一して見やすく仕上げられていました。



【発表内容】

あまり使われていない公園が増えていることに注目し、「居場所としての公園のポテンシャルを最大限引き出すためにはどのようにしたらよいか明らかにする」ことを目的に、今の公園の現状について調査をし、公園の理想像はどんなものなのかを考え、公園を活用するためにどのようなアクションを起こしたらよいか、どのような手段があるのかを具体的に調べて発表しました。生徒たちの発表から、「既存の公園を地域の人々の居場所となるようにう



まく活用したい」という生徒たちの願いが伝わってきました。

また、もし今後さらにリサーチを進める場合には、

- ① 子どもたちにどんな公園にしてほしいか、意見を聞いて公園を改造する
- ② 公園の観察結果をデータにして分析する
- ③ どれぐらい公園の整備に予算がかけられているのか調べたい

など、次の目標について考えることもできました。

【SSR 講座のふりかえり】

最後に、この 1 年間に SSR 講座で学んだことを生徒たちに振り返ってもらいました。生徒たちの振り返りを抜粋してご紹介します。

- ・ 二学期の授業では、初めて自分でテーマを決めてレポートを書いたので難しかったです。決められたテーマで書くよりも自分が興味を持った内容について書くことができたので興味深かったです。また、今後大学などでもこのような形式のレポートを書くことが増えると思うので、良い経験になったと思います。
- ・ 自分のテーマである島づくりについて調べるうちに、島を旅行する時に体験する観光地としての側面だけではなく、人々が生活を送るまちとしての側面からみることができました。また、実現可能な街を活性化する政策を思いつくのは難しいなと思いました。当たり前のことですが思いつくのが簡単であればすでに実行されていると思うので、まちづくりとは簡単には行うことができないが、成功すれば多くの人に幸せをもたらす奥の深いものだと感じました。
- ・ レポートをみんなで読み合って感想を言う時間をとっていただけたので、他の人の視点からのアドバイスを聴くことができ、自分のレポートをよりよくすることができてよかったです。また、クラスメートのレポートを読んで、公園や都市のシンボルについて学ぶことができたのもおもしろかったです。それぞれレポートの構成や考察の考え方が違って今後の勉強にもなりました。
- ・ ポスター作成では、みんなで協力することができて仲間意識が強まったことがとてもよかったです。ポスターを作るにあたって実際に調査を行ったことがとても印象に残っています。実際に自分の目で見て確かに人が少ないと感ずることができてよかったです。また、子供が遊んでいても遊具を使っている割合が少なかったという調査結果を知って、自分も小さい頃遊具より友達と鬼ごっこなど走り回っていることが多かったので遊具をもっと減らしてもいいのかなと思いました。調査によってこのような新しい発見をすることができたこともポスターを作ることの醍醐味だと感じました。

- ・ SSR の楽しいところは、街や場所と勉強だけではなく、留学で来た人たちとも関われるところでした。ヌエバの子どもたちが来た時のインパクトは忘れません。ゲストが来た時は、ウェルビーイングなどの話をしました。日本に来てからウェルビーイングを全然耳にしなかったけれど、SSR に入ってまた改めて聞くことになりました。日本にもこのワードを広めるべきだなと思いました。
- ・ 一年をふり返ると、楽しかったなと思いました。クラスルームの雰囲気が他と違うので、気持ちの入り方が違うなと感じました。先生方の授業への熱意が伝わってくるのもまた面白かったです。
- ・ 大月先生の動画を視聴して、どのように建物をつくればコミュニケーションが促進していくかも勉強しました。この学習を通して自分は今後どうやって社会を変えていくかのヒントを得ることができました。

【授業を終えて】

今年度の SSR 講座は少人数クラスで生徒と教員との距離が近く、この 1 年間で多くの学びがあったことが生徒たちのふりかえりからわかりました。個人で、そしてグループで考え、ディスカッションし、課題を解決していく力を身につけ、レポート発表やポスター発表を通して大きく成長することができました。この 1 年で習得したことを来年度の SSD 講座につなげていってほしいと思います。1 年間、本当にお疲れ様でした！

